

専門医筆記試験出題問題 (第5回, 6回より抜粋)

- 1 誤っているのはどれか。
- a 中心静脈カテーテル敗血症の起炎菌はカンジダが多い。
 - b *Helicobacter pylori* はペニシリン耐性のことが多い。
 - c *Bacteroides* は β -ラクタマーゼ産生菌が多い。
 - d キノロン剤と制酸剤の同時投与は吸収が阻害される場合がある。
 - e MRSAはPBP-2'の出現によって β -ラクタム剤に耐性となる。
- 2 *Methicillin resistant Staphylococcus aureus* (MRSA) と関係のないのはどれか。
- a PBP-2'
 - b *mec A* 遺伝子
 - c エンドトキシン
 - d TSST-1
 - e エンテロトキシン
- 3 エンドトキシンショックの病態で正しいのはどれか。
- (1) 血管内皮細胞の損傷が起こり、DICを併発することが多い。
 - (2) 感染巣がなければ発症することは少ない。
 - (3) 血小板活性化因子(PAF)が活性化されるので、血小板が増加する。
 - (4) Hageman因子が活性化されて血中キニンが増加する。
 - (5) 血管内皮細胞より酸化窒素(NO)などの平滑筋弛緩因子が放出される。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
 - c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
 - e (3), (4), (5)
- 4 正しいのはどれか。
- (1) 静脈栄養法における日本人の脂肪の静脈投与量は1g/kg/日が適当である。
 - (2) 分枝鎖アミノ酸(BCAA)は蛋白代謝改善に有用である。
 - (3) 中心静脈カテーテル感染症の起炎菌はグラム陰性桿菌が多い。
 - (4) 高カロリー輸液時の代謝性アシドーシスの原因の1つはビタミンB₂欠乏である。
 - (5) 間接熱量測定では呼吸商の算出により燃焼基質が判別できる。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
 - c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
 - e (3), (4), (5)
- 5 腫瘍マーカーについて正しいのはどれか。
- (1) 遺伝形質Lewis-a陰性者では血中CA19-9は陰性となる。
 - (2) 肝障害が存在すると血中CEA値は上昇しやすい。
 - (3) 胆管細胞癌では血中 α -フェトプロテイン陽性のものが多い。
 - (4) 高度の黄疸により血中PIVKA-IIは陰性化することが多い。
- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ
 - c (2), (3)のみ d (4)のみ
 - e (1)~(4)のすべて
- 6 69歳の女性。50歳時に胃癌のため幽門側胃切除術を受けている。半年前より急に下腹部痛と右大腿部痛が発生し、数時間で軽快することが4回あったが放置していた。今回、同様の症状が軽快しないため来院した。来院時、全身状態は良好であるが痩せ型で、腹部は膨隆し、腹壁より腸輪郭が観察できる。腸雑音は亢進しているが、金属音は聴取しない。右鼠径部から右大腿内側にかけて疼痛を訴える。右股関節を軽く屈曲し、内旋している。入院時検査所見では白血球が11,200と上昇している以外、異常値は認められなかった。腹部単純エックス線写真では小腸ガスの鏡面像を認め大腸のガス像を認めなかった。
- 最も考えられる疾患はどれか。
- a 癒着性イレウス
 - b 絞扼性イレウス
 - c 右鼠径ヘルニア嵌頓
 - d 右大腿ヘルニア嵌頓

e 右閉鎖孔ヘルニア嵌頓

7 76歳の女性。18年前に直腸癌に対して Miles 手術を受けている。4～5日前よりインフルエンザにて発熱が続き、ほとんど飲食できないうえ、静臥していた。近医より抗生剤を2日間投与された。夜間発熱、多量の発汗とともに解熱を認めた。今朝5時頃、腹痛、悪心で覚醒した。この頃より頻回の下痢が出現した。最初は水様便であったが、次第に鮮紅色の粘血便が少量ずつ排泄されるようになった。

左腸骨窩に圧痛のあるバナナ型の腫瘤を触知する。人工肛門より行った注腸像(写真1)を示す。

この患者について正しいのはどれか。

- a 多発性大腸ポリープ
- b 偽膜性腸炎
- c 虚血性結腸炎
- d MRSA 腸炎
- e 動静脈奇形

8 誤っているのはどれか。

- a 食道の粘膜固有層には豊富なリンパ管がある。
- b 食道の上1/3には横紋筋がみられる。
- c 下部食道内の pH は通常5～7である。
- d 空嚥下で通常 LES は弛緩しない。
- e 胃食道逆流防止機構は LES 以外にもある。

9 誤っている組合せはどれか。

- a Nissen fundoplication—逆流性食道炎
- b Jekler-Lohtka operation—食道アカラシア
- c Thal-Hatafuku operation—横隔膜上憩室
- d blunt dissection—頸部食道癌
- e endoscopic mucosal resection (EMR)—0-IIb 型食道癌

10 77歳の女性。胸やけとげっぷを主訴に来院。上部消化管造影像(写真2)を示す。

正しいのはどれか。

- (1) 胸部単純エックス線写真で異常がみられる。

(2) 狭心症様の症状を呈する。

(3) 肥満は増悪因子の1つである。

(4) 内圧検査では下部食道高圧帯の口側への移動が認められる。

(5) 術式として Heller 法が選択される。

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

11 65歳の男性。約3か月前より食物がつかえるようになり、来院した。貧血を認めるが、腫瘍マーカー、心・肺・肝・腎機能には異常を認めなかった。

食道のエックス線像(写真3a)と胸部のCT像(写真3b, 3c)を示す。

正しいのはどれか。

(1) 潰瘍限局型の食道癌である。

(2) 食道気管瘻形成の危険が強い。

(3) 大動脈浸潤が強く疑われる。

(4) 気管分岐部リンパ節転移が疑われる。

(5) 心のうへの浸潤を認めない。

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

12 誤っている組合せはどれか。

a 胃全摘術—double tract 再建

b Heineke-Mikulicz 法—胃壁全層切開

c 胃潰瘍穿孔—Graham 法

d 膵脾脱転—Toldt の fusion fascia

e Laterjet 前神経枝—腹腔神経叢

13 胃癌の内視鏡的粘膜切除術について正しいのはどれか。

(1) 術後合併症で最も多いのは狭窄である。

(2) 切除断端癌陽性のときには内視鏡的再治療は禁忌である。

(3) 採取された標本に筋層がみられたときは遅発性の穿孔に注意する。

(4) 胃体部小彎や噴門部は出血が起こりやすい。

(5) 2cm を超える病変では分割切除をするこ

とで出血を予防できる。

- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

14 胃の悪性リンパ腫について正しいのはどれか。

- (1) MALT リンパ腫は悪性度が高い。
(2) 多くは B 細胞腫瘍である。
(3) extranodal lymphoma が多い。
(4) 生検診断は胃癌より容易である。
(5) 第一選択の薬剤は Mitomycin-C と 5-FU である。

- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

15 正しいのはどれか。

- (1) 上部消化管運動は食後期と空腹期のパターンに分類される。
(2) 空腹期運動は強収縮期と休止期が周期的に出現する。
(3) モチリンは空腹期収縮発現と密接な関係がある。
(4) 下部消化管機能異常による症候群を non ulcer dyspepsia (NUD) という。
(5) 胃内 pH の夜間逆転現象は胆汁の逆流によって起こる。

- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

16 胃癌の No.16 リンパ節 (N₄) 転移について正しいのはどれか。

- (1) mp 癌でも見られる。
(2) N₄ のうち最も転移率の高いのは No.16a₁ である。
(3) N₃ リンパ節に転移がなくても見られる。
(4) 胃体中部や噴門部の進行癌で転移率が高い。

- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ
c (2), (3)のみ d (4)のみ
e (1)~(4)のすべて

17 大腸の病変について正しいのはどれか。

- a 0 型 (表在型) は壁深達度が M, SM と

推定される癌をいう。

- b 早期癌とは壁深達度が m, sm でリンパ節転移陰性のものをいう。
c non-lifting sign 陽性であれば内視鏡的切除を考慮する。
d 遺伝性非ポリポーシス大腸癌は左側結腸に多い。
e 若年性ポリープは腺腫性ポリープの一つである。

18 誤っている組合せはどれか。

- a アメーバ大腸炎——メトロニダゾール
b 偽膜性大腸炎——セフェム系抗生剤
c 放射線直腸炎——ステロイド
d 小腸単純性潰瘍——サラゾピリン
e MRSA 腸炎——バンコマイシン

19 小腸平滑筋肉腫について正しいのはどれか。

- (1) 回腸末端に好発する。
(2) 出血は主要症状のひとつである。
(3) 血管造影では豊富な腫瘍血管と腫瘍濃染をみる。
(4) 放射線感受性は低い。
(5) 空・回腸癌に比べて予後は不良である。

- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

20 61歳の男性。1か月前より食欲不振。37°C台の発熱を自覚。1週間前より腹部膨満、嘔吐を訴え来院した。腹部エックス線単純写真で腸管拡張像が著明であり、イレウス管で減圧を試みたが改善せず開腹術を施行した。

なお術前は、体温 38.5°C、脈拍 102/分、血圧 98/60mmHg、白血球 8,000、赤血球 364万、Hb 9.8g/dl、赤沈 98mm/1時間、総蛋白 5.8g/dl、アルブミン 2.9g/dl のほか、生化学検査で異常を認めなかった。

術中写真 (写真 4a) と切除標本 (写真 4b) を示す。なお、腸間膜の結節に悪性所見は認めなかった。

正しいのはどれか。

- (1) 腸管の主要病変は回腸に多く見られる。
(2) 腸管の切除範囲は高度狭窄部ににとどめるべ

きである。

(3) プレドニンが有効である。

(4) 根治的には大腸全摘が望ましい。

- a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ
c (2), (3)のみ d (4)のみ
e (1)~(4)のすべて

21 65歳の男性。通過障害を伴う直腸癌と診断されている。術前に腹痛、血性下痢がみられ、切除標本では写真(写真5)のごとき潰瘍性病変が認められた。

この病変について正しいのはどれか。

- (1) 狭窄部より口側に、正常粘膜を介して存在する。
(2) Ul IIIの下掘れ潰瘍が認められる。
(3) 狭窄や縫合不全の原因となる。
(4) 本疾患は不完全閉塞状態でも発症する。
a (1), (3), (4)のみ b (1), (2)のみ
c (2), (3)のみ d (4)のみ
e (1)~(4)のすべて

22 原発性肝細胞癌症例のUS像(写真6a)、血管造影像(写真6b)を示す。

占居部位はどこか。

- a Seg 4
b Seg 5
c Seg 6
d Seg 7
e Seg 8

23 誤っている組合せはどれか。

- a 肝細胞癌——胆汁産生
b 胆管嚢胞腺癌——粘液産生
c 胆管性過誤腫——von Meyenburg complex
d 肝芽腫——AFP陽性
e 胆管細胞癌——fibrolamellar carcinoma

24 門脈圧亢進症でpresinusoidal blockを示すのはどれか。

- (1) 肝硬変症
(2) 特発性門脈圧亢進症
(3) 日本住血吸虫症

(4) 原発性胆汁性肝硬変症

(5) Budd-Chiari 症候群

- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

25 腹部血管造影(写真7a, 7b, 7c)を示す。正しいのはどれか。

- (1) 治癒切除としてS5, S6切除を行う。
(2) リピオドールの注入により、肝全体の病巣を確認出来る。
(3) A-V シャントが認められる。
(4) 肝内転移巣を認める。
(5) 肝細胞癌が最も疑わしい。
a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

26 正しい組合せはどれか。

- a Caroli 病——総胆管空腸吻合術
b 急性化膿性胆管炎——内視鏡的乳頭切開術
c 原発性硬化性胆管炎——肝部分切除術
d 先天性総胆管拡張症——総胆管切開兼 T-tubeドレナージ
e 先天性胆道閉鎖症——ERBD

27 重症急性膵炎について正しいのはどれか。

- (1) Grey-Turner sign は後腹膜腔出血の徴候である。
(2) 多臓器障害では呼吸不全の合併頻度が最も高い。
(3) 急性腎不全併発例では輸液は控える。
(4) 腹膜灌流により高脂血症も是正される。
(5) 晩期の死因は循環不全が最も多い。
a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

28 48歳の男性。繰り返す心窩部から左上腹部痛および背部痛のため入院した。

ERCP像(写真8)を示す。

この画像から考えられる疾患はどれか。

- (1) 内胆汁瘻
(2) 輪状膵
(3) 膵胆管合流異常

(4) 膵癒合不全

(5) 膵体尾部欠損症

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

29 腹腔鏡下胆嚢摘出時にみられる頻度の高い合併症はどれか。

(1) 血管損傷

(2) ガス塞栓

(3) 高二酸化炭素ガス血症

(4) 胆管損傷

(5) 腸管損傷

a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)

30 65歳の男性。生来健康であったが、この数年時々上腹部痛があった。人間ドックの腹部超音波検査で膵管の拡張を認めたため来院した。

Vater 乳頭部写真(写真 9a)と ERP 像(写真 9b)を示す。

考えられる疾患はどれか。

a 膵頭部癌

b 膵石症

c cystic fibrosis

d 粘液産生性膵腫瘍

e solid and cystic tumor

写真 1 (問 7)



写真 2 (問 10)

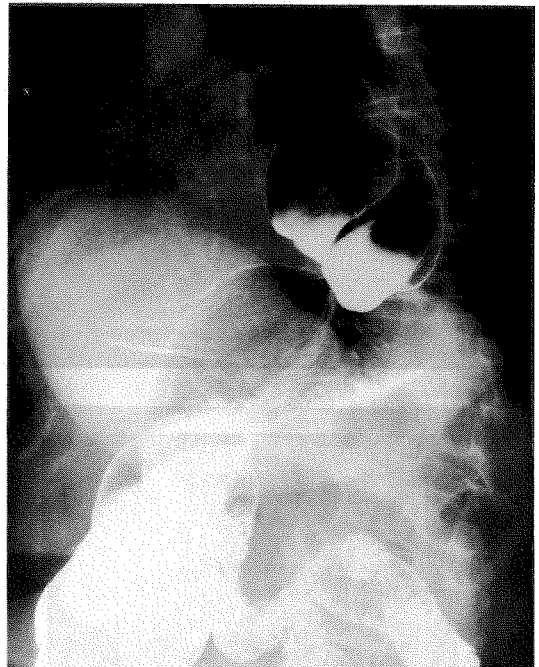


写真3 (問11)

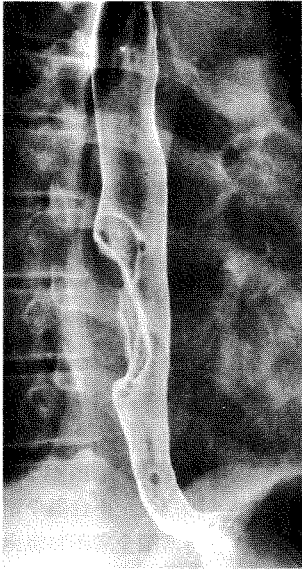


写真4 (問20)

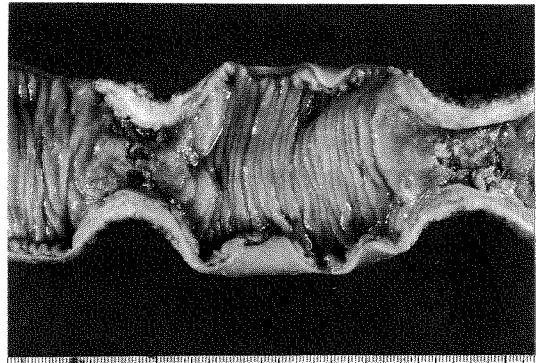
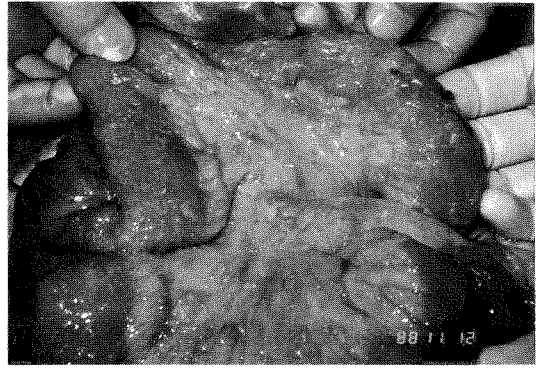


写真5 (問21)

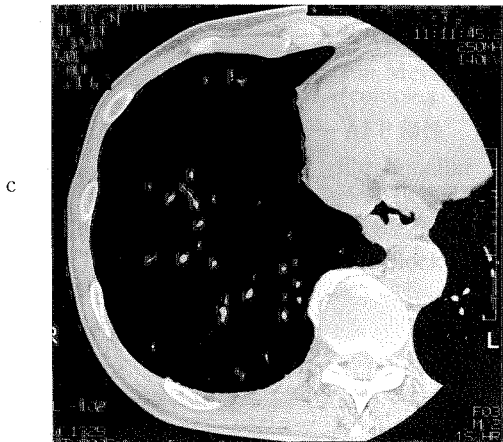
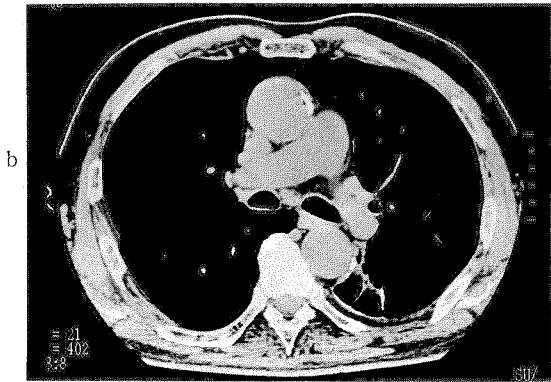


写真6 (問22)

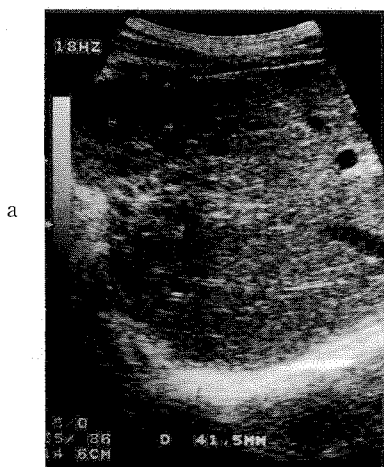


写真7 (問25)

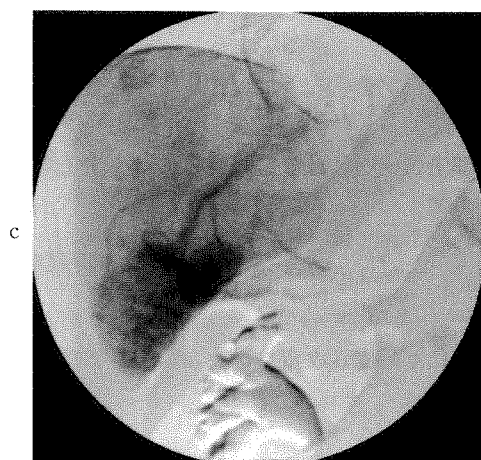
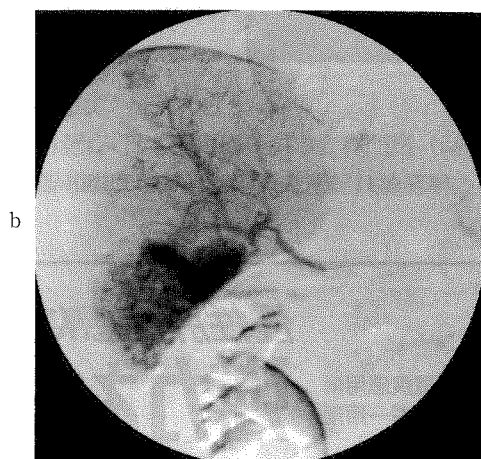
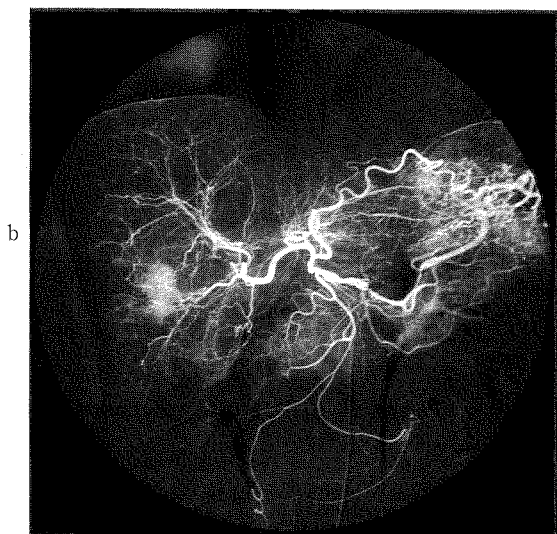
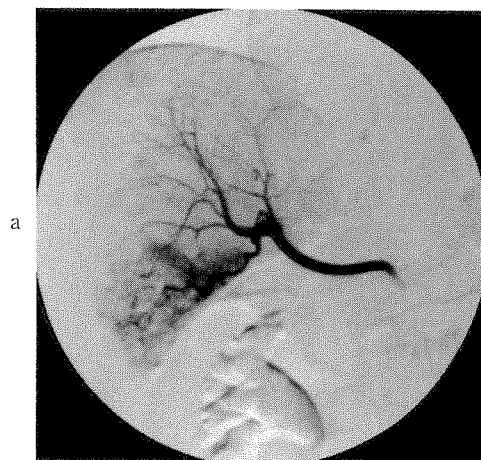
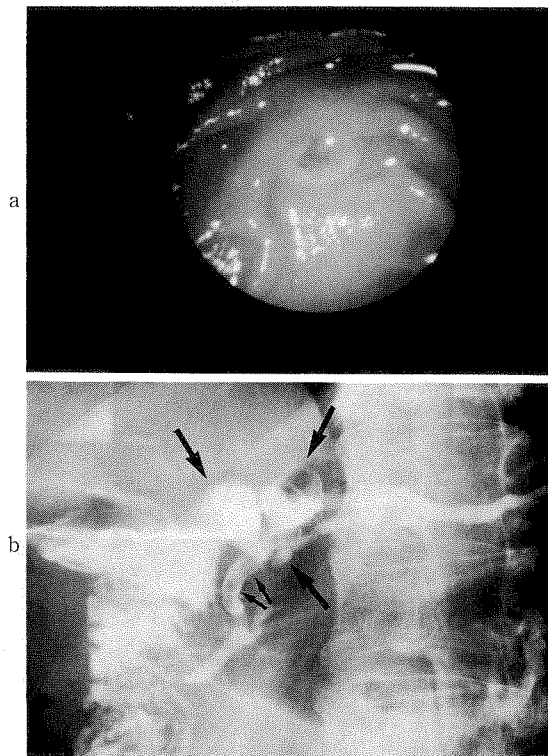


写真8 (問28)



写真9 (問29)



(※写真4, 5, 9a はカラー写真で出題)